

## 2014 年度卒業展・大学院修了展 オープニング挨拶

2015 年 2 月 21 日

尾池和夫

いよいよ始まりました。今日からの卒業展、修了展の開催に当たって、ひとことご挨拶いたします。

この行事は、皆さん方が大学に入学して 4 年間の総集編としての作品を発表する、あるいは大学院の課程を修了して、その研究成果を世に問う展覧会であります。昨日までの内覧会を含め、3 月 1 日までの間、皆さんの学習と研究の成果を、一般の市民に評価してもらう機会であり、皆さんが社会で活躍するための最初の展覧会であり、また、このキャンパスで学習する最後の機会でもあります。

そういう機会ですから、学長としての感想をまずお話しします。私はこの展覧会を見るのが今回で 3 回目です。2012 年度の展覧会では、千住博学長が市民を案内するミニツアーに参加しました。その的確な説明を聞きながら、不思議に思ったことがありました。それは展覧会であるにもかかわらず、作者と指導教員が作品の前にほとんどいないということでした。2 回目は、昨年、2013 年度の展覧会でした。そのときは千住先生が来られて、短時間の視察をして、ご自分の賞を決めるという時間にお供をしました。しかし、あまりにも移動が早くて、途中ではぐれてしまい、あとは自分のペースでゆっくり見て回りました。

そこで、今回は、秘書課に頼んで、公務を昨日と今日の昼間、他の用務を入れないようにあらかじめ頼んでおいて、自分のペースですべてをみるという方針にしました。それまでにさまざまな機会を通じて先生方には、展覧会の期間中、できるだけ作者と指導教員が作品の場所において、来られた方の質問に答えるようお願いしておりました。

展覧会というのは、市民の方々に自分の作品の成果を問う機会です。そこで高い評価を得ることができるかどうかに関係するのは、作品の質そのものであり、展示の仕方であり、広報の仕方、宣伝の仕方であり、作者の姿勢であります。そのような視点でこの 2 日間の印象を申し上げます。総合的に、すばらしい展覧会になっています。多くの学科の展示場所では、作者と教員が集まっていて、私の意見も聞いていただきました。1 つの作品の前で私が話をしていると、学科長が皆を呼び集めて一緒に聞くようにと指示する場面も多かったです。

2 日間で約 1 1 時間を視察にあてることができました。移動の 3 時間を引くと、卒業生 1 人あたり約 3 0 秒の時間ですが、興味を持つ作品の前ではつい長くなり、教学事務の職員の方が組む予定は大幅に遅れることがしばしばでしたが、ほとんどの場所で作者たちが集まって熱心に説明してくださいました。じっくりと拝見したいと思う作品は、あらためて来ますといいながら、何とか夕方までに予定をこなすことができました。

これからあらためて、公務の合間に気ままに見に行きたいと思っていますので、また質

間に答えていただきたいと思います。展覧会では、やってきたお客さんが作品に興味を持ってくれるのか、前を素通りしていくのか、作者にはたいへん気になると思います。しかし、それが皆さんの社会での活躍の最初の出番になるのです。お客さんたちの反応をしっかり見定めて、これからの自らの人生に役立ててほしいとおもいます。

これから社会に出て、その荒波にもまれながら、芸術作品が売れるか、編集した本が売れるか、デザインが買ってもらえるか、都市計画が実現するか、大学院で納得できる研究が進むか、すべてがこの展覧会の時間と空間から始まるのです。そういう意味で、3月1日までを有意義に過ごし、卒業式、修了式を迎えていただきたいと思います。

皆さんのご活躍を祈って、オープニングの挨拶といたします。

ありがとうございました。